令和８年度　静岡県森林・林業技術研究発表会講評

(はじめに)

・審査委員を代表いたしまして令和８年度静岡県森林・林業技術研究発表会の講評を申し上げます。

・発表者の皆様は、多忙な業務の中、日々問題意識を持ち、技術の研鑽に努められ、今回、このような場において発表されたことに、深く敬意を表します。

・また、発表者を支援していただきました職場などの関係者の皆様、並びに熱心に最後まで聴講いただきました会場の皆様に御礼申し上げます。

(発表の内容)

・この発表会は、森林との共生に関する技術の向上や森林・林業に係る産官学等が連携した研究開発や取組の推進及びその成果の普及を目的に開催するもので、今回で 55 回を数える発表会となりました。

・今年度は９件の発表が審査対象となっており、発表の内容から 2 つの部門に分けて審査いたしました。1 つは、治山や林

道事業などに関する発表を「治山・林道部門」とし、４件の発表がありました。また、森づくりや林業振興などに関する発表を「森林・林業部門」とし、５件の発表がございました。

・発表は、民間の関係者からの発表が１件、民間と県の共同から１件、市町からの発表が２件、県から５件となっており、その内容は、公共工事やその施設の管理、事業の効果、新技術の導入など、様々な分野や視点から発表が行われました。

(全体の講評)

・それでは、まず、全体的な講評から申し上げます。発表全体の講評として２点ほど申し上げます。

・１点目として、「発表内容の創造性」であります。

・森林・林業の課題や日常業務の問題に対し、新たな視点からの提案が多く見られました。

・LiDAR や FRD 等のデジタル技術を活用した能率化や省力化のみならず、森林所有者や多くの関係者で構成された組織についての取組など、課題解決や業務改善に向け、苦労が多かったと思われる実践的な発表が多く、今後の森林・林業への貢献が期待されます。

・２点目として、「考察、研究成果」についてです。
・現場の課題や新たな取組に対して、改善策が具体的に示されていて、業務に活用する視点が良くとらえられていました。
・一方で、課題解決や目標に向けたデータが少ない事例も見受けられました。もう少しデータが積み重なることで、さらに説得力のある発表になったと感じるものもありました。
・限られた時間の中での取り組みではありますが、今後は現地検証や考察をさらに掘り下げ、業務への応用や改善に向けた発展的な内容を期待したいと思います。

(優秀発表の選定)

・次に、優秀発表を選考した結果について申し上げます。
・審査方法は、15名の審査委員が発表課題ごとに「テーマの設定」、「創造性」、「考察と成果」、「発表態度」、「資料の整理・わかりやすさ」の５つの項目から審査しました。
・審査結果をもとに、審査委員会で協議した結果、「治山・林道」、「森林・林業」の部門別に合計５件の優秀発表を選定しました。
・それでは、優秀課題を発表します。まず、「治山・林道部門」

ですが３件の優秀発表を選定しました。

・１件目は、発表 No.８　林道寺澤洞山線における FRD を活用した森林作業道の検討　です。

・２件目は、発表 No.６　湖西市海岸防災林の保安林機能評価と今後の管理方針の考察　です。

・３件目は、発表 No.２　LiDAR 測量を用いた治山測量の展望です。

・時間の都合上、このうち、発表 No.８　林道寺澤洞山線における FRD を活用した森林作業道の検討　の講評を申し上げます。

・林道の路線選定において活用が進んでいる FRD の有用性を検証した事例であり、今後の林道や森林作業道の路線選定の時間短縮、コスト縮減の道筋が示されました。

・林業経営体等が行う森林作業道の計画等への積極的な活用が期待されます。

・また、実際の現場において、FRD の結果を再検証していただければと考えます。

・次に、森林・林業部門です。森林・林業部門は、２件の優秀

発表を選定しました。

・１件目は、発表 No.９　企業が森林・林業に求める価値とは～「天林の会」の事例～　です。

・２件目は、発表No.７　自走式機械による下刈りの省力化及び植栽木の成長に与える影響の評価　です。

・時間の都合上、このうち、発表 No.９　企業が森林・林業に求める価値とは　～「天林の会」の事例～　の講評を申し上げます。

・本発表は、林業経営体が木材生産以外の収入源を開拓する「森業」への先進的な取り組みを紹介するもので、現下の林業経営課題に対して極めて時宜を得た事例報告でした。

・特に評価される点として、異業種とのアプローチを戦略的に展開している点が挙げられます。

・ビジネスモデル確立という最終目標に向けて、取組の軸にブレがなく、一貫性のある経営戦略が示されていることが印象的です。

・このような多角的な価値創造の視点は、今後の林業経営の新たな可能性を示唆するものとして、高く評価いたします。

・以上が優秀発表でございます。おめでとうございました。

・優秀発表につきましては、今後、全国などの発表会に参加いただく場合もございますので、担当課から依頼がありましたら御協力お願いします。

(結び)

・最後に、この研究発表会につきましては、来年度も同時期に開催する予定でございます。今年度は、発表件数が９件ですので、来年度は今年よりも多くの発表を期待しております。今年度同様に多くの皆様に御参加いただき、日頃の課題へ対応や新たな可能性への取組など、多くの発表が行われることを期待いたしております。

・御来場の皆様におかれましては、長時間にわたり、ご清聴ありがとうございました。